京城日報
十二日（土）夕刊

萬歳の聲天地を搖がす

南京の敵を粉碎すべく 總攻擊の命令下る
我砲門一齊に開く！

【上海十一日同盟至急報】南京城壁に殺到した我が第一線各部隊に對し、十一日午前十一時城壁或は城内に蟠居し頑强に抵抗を継續中の敵を一擧に粉碎すべく、總進擊命令が下された

【孝陵衛にて十一日同盟特派員】我が砲兵部隊は紫金山に放列を布き午前十一時を期して一齊に砲門を開いた、我が正確無比の砲擊は一發毎に城壁及城壁上の堅壘を片端から粉碎し、火砲の威力を最大限に發揮してゐる

中山門に殺到

【光華門にて同盟特派員】紫金山麓より南京城壁に迫る富士井、伊佐兩部隊は十一日朝來空軍の激烈な猛爆擊によつて中山門死守の敵怯むと見るや、午前十一時半一氣に中山門に殺到砂塵の中に大混亂を展開しつゝある

海軍機大活躍

【上海十一日同盟】海軍航空隊○○機は十一日早朝來南京に到り高射砲彈の炸裂する中を敵陣目がけて見事に急降爆擊を敢行して陸軍の活動に協力した、南京城は轟々たる爆音と物凄い砲煙に包まれてゐる

夜襲の敵を擊退
城内の敵を掃射中

【光華門城外にて十一日同盟特派員】十日午後五時半激戰の後光華門を確保した脇坂部隊の一部隊は城壁を奪取せんとして夜襲を反復し來れる敵大部隊との間に數次に亘る夜戰を演じ、伊藤部隊は飽くまで一旦確保した城壁を死守し十一日早朝に至り多大の打擊を與へて之を擊退、午前九時半城壁上に機關銃を据ゑ付け更に數條の日章旗を朔風になびかせながら城内の敵を掃射中、陸海兩飛行隊も之と呼應し城内の敵を猛爆中である

【光華門城外にて十一日同盟特派員】十日夜半より今曉にかけ光華門の伊藤部隊方面に大逆襲し來つた敵は城壁を奪回せんと必死の勢力物凄く、手榴彈、機關銃それに催淚彈を緬注し來り我が將兵は直ちに防毒面をつけて應戰一時は非常な苦戰に陥つたが、肉彈戰をも辭さぬ奮戰をもつて抗戰し來つたことは擊退輝く十一日黎明を一明かとなつた、この夜襲戰で迎へたのであつた、この敵はいよいよ本格的

最後のあがき 敵毒ガス使用

海軍機の擊破せる敵機
總計四八六台
事變發生以來の累計

【東京電話】大本營海軍報道部午後零時三十分公表
支那方面艦隊司令長官指揮下の海軍航空部隊は中南支及び北支方面全般に亘り連日果敢なる空襲を行ひ、敵空軍基地、軍需品工場、軍事輸送機關などを爆破し以て敵空軍の擊滅及び軍需品の製造補充を破壞し多大の効果を收めると共に、中支方面の陸軍作戰に直接協力し敵陣地及び密集部隊に莫大な損害を與へその進出を支援しつゝあり、十二月一日より九日までに確實に擊破せる敵機の數は五十一機（内譯擊墜二十四機、地上爆破二十七機）にしてこの間に於ける我が海軍機の損害は九日南昌空襲に於て一機を失ひたるのみ、支那事變發生以來の累計次の通り事變發生以來我が海軍機が擊破せる支那飛行機

▲擊墜
確實なるもの　二二六
稍確實を欠くもの　一一
合計　二三七
▲地上爆破
確實なるもの　二二八
稍確實を欠くもの　二一
合計　二五九
▲總計　四八六
內譯
確實なるもの　四五四
稍確實を欠くもの　三二

なほ事變發生以來我が海軍機の損害は六十一機である

松井軍司令官 各部隊に感狀

【東京電話】大本營陸軍部十一日午前十一時三十分發表——上海方面に勇戰奮鬪しつゝある部隊に對して松井軍司令官より左記の如く感狀を附與せられ十二月十日夜夫々城門に傳達せられたり
谷部隊、藤田部隊、吉住部隊、山室部隊

蔣、態度を改めず
南昌に大本營を設置
最後の抵抗を試む

【上海十一日同盟】首都南京も破れ徹底的惨敗を喫しながら蔣介石は抗戰態度を改めず、最短期間内に南昌に戰時大本營を設置して敗殘兵を纏めて最後の抵抗を試みるに決した、大本營の組織内には共産軍首領朱德、毛澤東等を重要地位につかしめることになつた、しかして一方張治中をして新兵三十萬を强制募集訓練せしめ、また廣西、四川、湖南の各軍を纏め軍事機構の强化をはかると共に今後の作戰方針を變更して、日本軍の猛攻に備へるに決したと言はれる

牧島同盟映畫班員負傷

【麒麟門にて十一日發同盟】同盟通信社牧島映畫班員は十日午前十時南京に迫ること二里の麒麟門前面にて戰車に同乘撮影中、左前額部に敵の砲彈の破片を受けて軽傷を負つた

城内に尚十數名の米人殘留

【ニューヨーク十日同盟】A・P上海電報によれば上海埠頭に碇泊中のアメリカ砲艦……

南京陷落と共に 首相談を發表
不動の信念を中外に闡明する

【東京電話】政府は南京陷落と同時に首相談の形式で聲明を發表することとなつたが、特に左の三點を强調しもつて國民の長期抗戰の覺悟を要望すると共に、我國の支那事變に對する不動の信念を中外に闡明することに……
一、國民政府の……

太平を完全占領

【東京電話】大本營陸軍部十一日午後一時發表—我軍の一部は南京蕪湖道上の要衝、太平（別名當塗）を完全に占領せり

觀城、范城、東昌の敵を爆擊

【○○根據地十日同盟】黄河を越えて南方に潰走する敵に對して連日猛爆擊を加へてゐる島谷部隊は十日午前十時卅五分河北、山東兩省境なる觀城に群る數百の敵に對して爆擊を加へ、島田部隊は同十一時半范城（觀城東方廿キロ）の敵を爆擊し、又山進部隊は運河畔の東昌（大名東北方六十キロ）に敗殘兵の集結してゐるのを發見爆擊し、多大の損害を與へた

南京陷落

十日本社著報の戰況綜合
世界戰史に光輝ある一頁を飾る敵國首都攻略の歷史的瞬間、十日午後一時半を期して南京城總攻擊を開始した皇軍は華々しき步砲空の立體戰を展開、潮の如く東西南の各城門に殺到、攻擊開始後僅か四時間にして脇坂部隊の光華門占領を一番乗りに續々各城門に日章旗を飜へし城内に突入して南京城は遂に陥落壯烈な市街戰を演じて殘敵掃蕩に移つた、即ち前日我が松井最高指揮官の情理を盡した投降勸告にも拘らず敵は徒々攻勢に出でつゝあり、情勢緊迫を告げる中に我が空軍は早朝から城内外の敵陣を……

戰局日記【十日】

朝香宮鳩彦王殿下
南京一番乗りの部隊將兵に對し 御褒めの御言葉ご御菓子を賜ふ

【大校場にて十一日同盟特派員】第一線にあつて親しく御督戰中の朝香宮鳩彦王殿下には十日夜南京城壁一番乗りをなした○○部隊の將兵に對しておお褒めの御言葉を賜り、且つ御手許の御菓子を賜つたが突入の勇士に賜つた、城壁上の勇士は暫し血刀をとる手を休めこれを押し戴き勇氣百倍部隊では之を全部勇敢な城壁し更に城内の敵と交戰中

南京陷落皇軍萬歳

皇國臣民ノ誓詞

【其ノ一】
一、私共ハ大日本帝國ノ臣民デアリマス
二、私共ハ心ヲ合セテ天皇陛下ニ忠義ヲ盡シマス
三、私共ハ忍苦鍛錬シテ立派ナ强イ國民トナリマス

【其ノ二】
一、我等ハ皇國臣民ナリ忠誠以テ君國ニ報ゼン
二、我等皇國臣民ハ互ニ信愛協力シ以テ團結ヲ固クセン
三、我等皇國臣民ハ忍苦鍛錬力ヲ養ヒ以テ皇道ヲ宣揚セン

南京陷落の祝辭を述べ 銃後の覺悟を强調す
南總督けふ本府全廳員に

南京陷落の歷史的快報に接した南總督は、皇軍將士の奮戰に深甚の追力のある訓示を速記し直ちに全鮮各道に配布し半島が打つて一丸……

南京陷落に際し 總督談話

勝って兜の緒を締むべきなり
小磯軍司令官は語る

敵國の首都南京の陷落に際して……
官は次の通り……

敵國

茲に日章旗……

菅原梅吉隊長 名譽の戰死

大林大尉初陣 南昌空襲に大手柄

陸軍首腦重要會議

廣東省主席に宋子文を任命

天地玄黄

國定忠次（187）

長谷川伸作
岩田專太郎畫

提灯攻め（三）

飛脚は眼を血走らせ、野久松の眼の前に、握つた拳をヌツと出し
『おら、何ぼわれが止めても止まるものでねえ。いいだか野久松おらだ、われをブツ挫いてもこの物置の中へはひつてみせるだ。親分が來て、飛脚よせといつてもおら肯かねえ』
物置小屋の中では成松が、この話を耳にして、ゆふべの兇行に引代え今は、定めし青く顫へてゐるだらう。
飛脚は自惚だがり、野久松の鼻の前へ拳を近づけ、
『われ邪魔するだか、しねえだか返答しろ』
『困るなあ』
『おらも困る。小助の枕飾足りねえでは何より困る』
『仕様がねえ、今の俺では飛脚さんが押切れねえのだから、じやあ引下ります』
『ウン、われ、話が判かる。じやあ一緒に行つてやる。おやツ、親分は俺にくるなといつてゐるらしい』
『本當だ』
『飛脚、一人で行つてみろ』
『ウン、仕方ねえ。厭だな、又怒られるだ』
不性無精に飛脚が物置へ近づくと、忠次は庭で、こつちへ來いと飛脚に合圖して竹藪の下へはいつて行く。
飛脚は心細さうに伊八を振返り振返つて忠次のあとを、可成り放れて竹藪へ潜り入つた。
竹藪の下は薄暗い。
忠次は奥へ奥へはいつて行く、仕方がないので飛脚も、奥へ奥へとつづいて入つた。忠次が立停る。
『飛脚や。もツとこつちへ來い』
『へい』
『へいじやねえ。此方へこいといつてゐるんだ』
と、飛脚が物置小屋の戸に手をかける、そのうしろへ伊八が飛んできて、
『いけねえ何をするんだ。そんな事をすると親分が怒るぞ』
『だれか思つたら八寸の伊八か。何ぬかすだい。おらが何ぼいつてもわれ達は判らねえでねえか。小助の枕飾り、生捕りの首供へねえで何を供へるだ、馬鹿々々しい』
『仕様のねえ男だ。そんな事をすると親分が怒るといふのが判らねえか』
『怒るだら怒れ。足りねえ物は足りねえだ』
『飛脚、親分がお呼びだ』
『嘘こいて騙すでねえ』
『嘘だものか。親分がこつちへお出でなさる』
『えツ』
『それ見ろ、そこへお居でなすつた』
『悪い處へ親分がきたものだなあ』
忠次が苦い顔をして、竹藪の外れに近くにゐる。伊八が、
『飛脚。親分が手招きをなすつてら。行けよ』
『ウン。行くには行くが、われも一緒にきてくれ』
『叱られるのを承知でゐやがる。
『誠に申譯ねえだ。へい』
『飛脚、どうしてお前は俺のいふことを肯かねえ』
『へい』
『成松の首をとつて小助の前に供へる、それだけで良いのか』
『良くねえだ。成松の次には玉村の京蔵兄弟の首を取るだ』
『京蔵が小助を殺したのか主馬が殺したのか、判つてゐるのか飛脚』
『それに違えねえ』
『民五郎の敵は確に主馬だが、今度のことは、成松が白状しねえからまだ判つてゐねえ』
『判るも判らねえもねえだ』
『小助を殺したのはあいつだらうの、だらうだけでやるのか、いけねえ。俺はそんな事をさせねえ。民のことは確に主馬だとお鯛の口からも聞いたし、證據になるものが俺の手にへえつてゐるから、その方の仕返しはする、が、小助のことは、もツと確なことを知つてからにしてえ』
『判らなかつたらどうするだ？』
『常福寺で、博徒でも人ひとり、さう無闇なことが出來るか。俺はな、天下の御法の裏をゆく博徒だから堅氣さんのやうに、御上の手を煩はさず　わたくしの裁で荒事の結着を明けはする。が』
と、じろりと忠次がみた。

京城日報
朝刊
編輯兼發行人　見島吉治
印刷人　小川三之介
京城府太平通一丁目
發行所　合資會社　京城日報社
コイン
コインVローフ
小學館
八大學習雜誌
新年特大號
壯觀！兒童雜誌界空前ノ豪華陣
冬休ミ・オ正月ノ愛兒ノ教育ハ一切本誌ニオ任セ下サイ!!
オ子樣ヲキツト模範生ニスル立派ナ小學館ノ『八大學習雜誌』
全甲生ニスル學科記事
面白ク爲ニナル讀物
以上ノ諸先生ガ責任御執筆デス!!
馬場大臣閣下　廣田大臣閣下　賀屋大臣閣下　永井大臣閣下　荒木大將閣下　野村大將閣下　松岡參議閣下　櫻井忠溫少將　大場彌平少將　石原純理學博士　辻二郎工學博士
岡田道一醫學博士　大佛次郎先生　宇野浩二先生　白井喬二先生　三上於菟吉先生　山中峯太郎先生　西條八十先生　サトウ・ハチロー先生　小川未明先生　福永恭助先生　其ノ他
創造創作力ヲ養フ附録
小學生學術報國大行進
本日發賣　即刻書店デオ求メ下サイ!!
一年生　二年生　三年生　四年生　五年生　六年生　幼年知識　幼稚園
東京・神田
小學館
ミツワ石鹼
御歳暮も
高尚で而も御家庭向きの
御進物として此の
品に優る物はありません
彼れこれと迷ひ出したら
際限がありません
要は誠意を贈ることです
煩しい撰り好みは止して
あつさり今年も實用的な
ミツワ石鹼と行きませう

城內六萬の敵血路を斷たる

奇襲、一擧に揚子江を渡り 南京對岸に進出す

長野、山田兩部隊猛虎の勢ひ

【蕪湖十一日同盟特派員】九日當塗を占領した長野、山田兩部隊は十日夜陰に乘じて一擧に揚子江を渡り奇襲を以て北岸に上陸、十一日拂曉烏江の敵を急襲してこれを占領、息つぐ間もなく省境を越えて江蘇省に進入し、日下〇〇方面に向け猛虎の勢を以て進擊しつゝあり、これがため南京籠城の敵が唯一の血路と恃んだ最後の退路も遂に遮斷され南京の敵約六萬は完全に我が包圍下に陷つた

城內富貴山砲臺を潰滅

【〇〇基地十一日同盟特派員發】潮田、友永兩大尉指揮の海軍航空隊〇〇機は十一日午前午後に亘り尙も最後の抵抗をなしつゝある南京上空に至り明の古宮附近に徹底的爆擊を加へ太平門內富貴山砲台を潰滅せしめた

和平門と太平門を奪取

刻一刻戰鬪激烈を極む

【秣陵關十一日同盟】紫金山東北側より南京城壁に迫る野田、大野、片桐、助川の各部隊は十一日朝來猛攻擊を開始、午前十一時半相前後して和平門、太平門の城壁奪取に成功、戰鬪は有利に展開しつゝある

【上海十一日同盟】わが最前線部隊は十日に引續き更に戰線を進め北、東、南三方正面より城壁に向つて殺到、十一日朝來和平門、太平門、中山門、共和門は機關銃、手榴彈、迫擊砲彈の炸裂で非常な激戰が展開され刻一刻激烈を極めてゐる

共和門の敵と激戰

【光華門にて十一日同盟特派員】西北兩側の城壁上よりの抵抗を排除しつゝ武定門外を一氣に殺進した人見部隊は共和門の敵と對峙し朝來再び激烈な銃砲火戰を交はしてゐる

鎭江東方の砲台を爆滅

【〇〇基地十一日同盟】柿原、小牧兩大尉及び牧中尉の指揮する海軍〇〇機は本日午前午後に亘つて〇〇基地を出發揚子江にあつてわが艦隊の揚子江遡航を阻止しつゝありし鎭江東北方約一里の砲台を猛爆潰滅せしめた

支那軍全滅の運命（紐育タイムス報道）

【ニューヨーク十一日同盟】ニューヨーク・タイムス紙南京特派員テイルマン・ダーヂン氏が九日香港經由發した電報によれば日本軍の南京總攻擊は一糸亂れぬ威力を發揮し極めて効果的で南京守備の司令官唐生智及び徐源泉麾下の十二ケ師は日本軍の猛攻擊の前に文字通り全滅の非運に直面してゐる

蕪湖完全占領 上海軍發表

【上海十一日同盟】上海軍午後二時發表＝宣城を占領後更に長驅して西北進し揚子江々岸の要衝たる蕪湖を攻擊中なりし片岡、藤山、小堺野附など各部隊は小池、澤野、井關部隊と協力し十日同地を完全に占領せり

蔣下野外遊の外なし UPの報道

【ニューヨーク十日同盟】南京陷落後に於ける蔣介石の進退について種々觀測が行はれてゐるが、十日上海發UP電は蔣介石は結局下野外遊の已むなきに至るだらうと報じ左の如く述べてゐる

蔣介石は政府部內の大勢が和平論に傾いてくれば焦土抗戰を唱へて來た手前下野の已むなきに至るだらう、この場合蔣介石は恐らく一、二年間外遊することになるだらうといふのが大方の識者の見解である、日本としても蔣介石の勢力が國民政府から分離すればあへて蔣介石の復歸に反對すまいとみられてゐる

第一線に御活躍の閑院若宮殿下の御勇姿【篠電送】

武漢に戒嚴令布かる

【上海十一日同盟】漢口來電によれば武漢にも戒嚴令が布かれ武漢衞戍司令郭懺は十日戒嚴司令に任命された、同司令部では郭司令官の名を以て廿ケ條より成る命令を發し掠奪を初め敵方に諜報を供給し敵方に有利な宣傳を行ひ或は通信を阻害する者に對して嚴罰を規定し併せて無屆集合及集團行進を嚴禁した

南京は事實上日本軍の手中に

米國政府筋の觀測（UPの報道）

【ワシントン十一日同盟】アメリカ朝野は南京が事實上陷落したとの報に豫想されたこととは言へ日本の威力に今更ながら舌を卷いてゐるが、UPワシントン支局の報道によれば政府筋では大體左の如き觀測を下してゐる

南京は既に事實上日本軍の手中に歸するに至つたが蔣介石はその精銳部隊を南京から撤收しこれを保持しない限り南京の陷落は統一支那崩壞の第一步となり

軍事的見地 からすれば南京の陷落は物資輸入と莫大な海關收入を支那から奪つた上海陷落に比し重要ではないがそれにも拘らず南京の陷落は蔣介石の威信及最近の支那統一に重大打擊を與へるものである、この結果更に蔣介石麾下銃砲及び從來南京政府としつくり結ばれてゐない黨派の離反が促進されるだらう、然し若し蔣介石が精銳軍隊を保持し日本軍に占領されてゐない地方の忠順を確保するならば日本軍は南京占領が空虛なものであることを發見しよう、蔣介石は今後なほ抵抗しようとしても十分な軍需工場がないため却つて危險であると思はれるが漢口その他國內から供給される最少限度の武器によつてゲリラ戰術を繼續することは出來よう

伊國聯盟脫退

事務總長に正式通告す

ム伊首相

【東京電話】外務當局發表＝本十一日午後六時在京伊國大使館參事官スラマツカ氏は井上歐亞局長を外務省に訪問し伊國大使の代理として本國政府の訓令に基き伊國政府は本日同時刻にセネヴァにおいて國際聯盟事務總長に對し伊國は聯盟を脫退する旨正式通告をなしたることを特に日本帝國政府に通報するの光榮を有する旨口頭を以て傳達した

南京大勝を慶祝

張總理、植田司令官を訪問

【新京十一日同盟】張總理大臣は南京戰大捷の報に接し十一日官邸に植田司令官を訪問慶祝の挨拶を述べた、なほ關東軍司令部並に滿洲國軍部でもそれぞれ全職員集合し皇居遙拜の後乾杯を擧げた

松井軍司令官 滿洲國へ挨拶

【上海十一日同盟】松井軍司令官は目下當地視察中の滿洲國上海派遣記者團を通じ十一日滿洲國に對する左の如きメッセージを發した

事變勃發以來滿洲帝國の皇軍に寄せられたる誠意協力に對しては感激措く能はざるものあり今や皇軍の南京入城は目睫の間となり東洋平和克復將に近きを思ひ日滿兩國のため慶賀に堪へず然りと雖も事變の前途尙遼遠なり[illegible]切に滿洲國官民の御奮鬪御協力を祈りて止まず

北京大學管理規定決定

【北京十一日同盟】北支における文化、產業、經濟の劃期的建設に即應すべき人的要素を養成する北京各大學の將來の教育方針につき北京地方維持會は十日常務委員會を開き各大學管理暫行規定を決定し、即日公布實施した、その規定は全十五條から成り主なる條項左の通りである

一、北京地方維持會の管理區域內にある北京、北平、師範、清華、東北、中國、燕京各官私立大學は全部地方維持會が臨時にこれを管理し

二、各大學設立認可、學校基金財源、教授項目、教科書その他教職員の任免等一切地方治安維持會の監督下におき

三、教育に關する方針として國文國學に重點を置き、日本語を第一外國語とし學生教育について固有の道德並に儀禮を尊重し復古思想を鼓吹す

南京陷落の報に 黃河以北慶祝の海

新政權への要望漸次具體化

【北京十一日同盟】皇軍の南京入城、中央軍の首都放棄の報は京津始め北支商民間に歡呼をもつて迎へられ、慶祝行事が十一日各地一齊に舉行され、黃河以北一帶は慶祝の二字に塗り潰されてゐる、しかして南京陷落によつて蔣介石政權は沒落し中央軍は再起不可能となることいよいよ明白となり新政府樹立の輿望が昂まり、要望が具體化し來つたことは注目に値する

支那要人漸く慘敗を容認す

【ニューヨーク十一日同盟】ニューヨーク・タイムス紙上海特派員アーベント氏の十日發電によれば日本軍の南京攻略とゝもに支那側[illegible]間に反蔣的空氣並に日和見的態度を示すもの續出し漢口、香港方面の支那政府要人も漸く支那側の慘敗を容認するに至つた、就中中央より離反の疑ひ最も深いのは張學良、劉多荃、劉峙、閻錫山、劉汝明などで彼等は國土よりも自己の財産と名譽と保身を念とし寢返りをうつたと傳へられる

國民政府否認

天津治維會から通電

【天津十一日同盟】皇軍の南京攻略により國民政府は事實上崩壞しまた多年の積弊に塗炭の苦しみをなめた中國民衆は新事態に即應した新政府の一日も速かに實現せんことを翹望し今や民衆の總意としてその聲は全國に澎湃として立つに至つた、天津治安維持會は十一日午前九時を期し全國各機關各團體に對して南京政府を否認、左の如き要旨の通電を發した

南京政府は多年國民の膏血をしぼり國政亂れ一方において蘇聯と提携して容共政策をとり中國をして赤化の淵に委ねんとするもとより吾人は赤化政策に對しては全國をあげて抗爭せんとするものである、南京政府の容共政策には絕對反對の態度を持してゐたが時恰も日支事變は日本軍の南京攻略に進展し遂に南京政府は重慶、漢口、長沙に分散し事實上解體するに至つた、國民政府の覆滅を熱望する全國民は今や共によつて四億國民を救ひ新政府の速に實現せんことを切望しつゝある、よつて吾人は國民の總意として解體せる南京政府を否認し新政府の樹立に對して絕對的支持の意思を表明するものである

定期敍勳

【東京電話】

京城帝國大學教授 大谷勝眞

敍勳三等、授瑞寶章

朝鮮總督府技師 石塚峻

朝鮮總督府鐵道局理事 西崎鶴司

敍勳四等、授瑞寶章（各通）

朝鮮總督府技師 窪田次郎治

同遞信副事務官 龜田周一

本府視學官 安岡源太郎

本府事務官 高橋敏

敍勳五等、授瑞寶章（各通）

漁業條約改訂交涉經緯發表

【東京電話】日ソ漁業條約改訂交涉については十月以來兩國間で折衝が進められてゐたが今なほソ國側より何ら確たる返答に接しないため外務省は十一日左の如き當局談を發表、交涉の經緯を公表するとともにソヴエート側に警告を與へた

[illegible]

外務參與官に 矢名成章氏

【東京電話】船田中氏の法制局長官就任に伴ひ缺員となつてゐた外務參與官の後任には[illegible]

蔣介石はソ

ヴエートの態度硬化、イギリスの再軍備の遣步だよる間接的支援を期待し[illegible]

南總督─天機奉伺

南京陷落の快報に接した南總督は十一日松平宮內大臣を通じ天機を奉伺すると共に參謀總長宮[illegible]

朴泳孝侯祝電

[illegible]

加藤氏退城

[illegible]

人

◇飯塚敬夜要塞司令官 [illegible]

◇小倉武之助氏（南鮮合同電氣社長）十二日釜山發關釜連絡船で北支へ

社説

新支那の誕生

南京は遂に皇軍の手中に歸した。上海占領以來日本の眼は心は南京一點に集中された。皇軍は意氣揚々として前進した。堅壘鐵壁の數かは、忠魂義膽の發するところ正義の心の燃ゆるところ、千萬人の抗敵も何のその、前進また前進驟進また驟進、神速矢の如く、早くも南京を占領したことは、素より皇軍の比類なき勇武に依るものであるが、これ實に皇室の御稜威に俟つところのものであつて、皇國日本の光榮何ものか之に過ぐるものがあらう。しかして、正義を以て立つところ俯仰天地に恥づるところなく、乾坤を睥睨して闊歩するの歡喜と誇り、實に之れ皇國日本臣民のみの矜持であらねばならぬ。國際正義の確立のため、アジアの平和の建設のため、將た又、聯へる支那四億の同胞の幸福を招來するため、皇軍萬里、あらゆる艱難辛苦と缺乏とを忍び、犧牲を厭はず、不屈なる奮闘や驍勇を意とせず、正義一貫の行動、今こそ世界は之を認識せずばなるまい。

×

北支の大勢既に決し、中支の形勢亦こゝに定まり、支那の命運は完全に照魔鏡に映出された。北支には早くも新政權樹立の色見ゆるが、之は決して單なる北支を限定しての新政權にあらずして、實に新支那誕生の曙光であることを知らねばならぬ。國民政府は多年英國を背景とする浙江財閥によつて擁護せられ、表面支那の統一を强調し、救國を表看板として存立をつゞけて來たのであるが、その實自家政權の維持に汲々として、その爲には時に蘇聯と結んで容共を敢し、時に蘇聯に反して赤化防止を謳ひ、更にまた一轉して容共に甘んずるといふ風であり、外國依存を一本立として前進し、抗日侮日を以て人心統一の麻醉劑として今日に及んだ。しかもその結果を見れば、與黨支那四億の同胞をば自家政權維持の傀儡として、欺瞞詐裝を之れ事とし來つたことが世に暴露されるに到つた。支那四億の民は結局何ものをも得なかつたのである。

×

しかも、國民政府は依然として抗日を揚言し、南京を撤棄して重慶と漢口とに離散しつゝも、長期抗戰を說くといふに至つては、彼等の心事の那邊に存するか殆ど理解に苦しむものである。しかして海外に於てなほ支那を支持せんとするものあるに到つては、一層その心事を疑はざるを得ないのである。しかし乍ら、之を靜觀すれば、支那の大勢は既に定まつたと見るべきであり、新支那は正に呱々の聲を擧げつゝあるのであるから、我等はこれを支持し、これを育て、東亞千年の平和の確立を期せなければならぬ。國民政府が奥地に呼吸するも、それは、新支那とは別個の世界であることを知るの要がある。しかして國民政府が抵抗をつゞくる限り、我等は飽まで之を膺懲するの用意と覺悟があるのであるが、それにも增して、我等は新支那の支援と指導に萬全の用意と決意とを定むるの要がある。南京陷落は正に新支那乃至新アジアの黎明として觀察せねばならぬ。

慶祝南京占領

將士の困苦と生命もて わが鐵蹄下の敵首都
……心づくしの勸告も今は空しく

南京は遂に陷落した、敵國首都の攻略といふ世界歷史に空前の大事も破竹の勢で進擊し來つた皇軍の武威の前には最後の止めは僅か四時間で成し遂げられてしまつた、首都南京を我が馬蹄下に蹂躙するは易し、されど古都江寧を戰禍から救ひ千載の文化を灰燼に歸するのを惜んだ我が情理ある投降勸告も空しく十日午後一時半歷史的瞬間を期して總攻擊を開始するや江南を席捲した皇威をかつて忽ちこれを陷落せしめてしまつたのだ、いま皇軍將兵が尊い血を流し進擊また進擊、江南を席捲した跡をこゝに顧みて見よう

北支の戰雲は上海に飛んで八月十三日日支交戰の火蓋を切つて以來三ケ月、十一月十日大包圍陣の完成と共に大上海を完全に我が手中にして以來皇軍の目指す所は「南京へ」「南京へ」、既に將兵の意氣は首都南京を呑んでゐた、肉彈戰を以て

一大要塞化 された大上海を屠つた皇軍の行く手を遮るものは何ものもなかつた、杭州灣敵前上陸に敵の背後に出て上海陷落を促進した部隊は强行に次ぐ强行を以て北進、また上海西部戰線を進擊し來つた諸部隊と握手は成つて十三日崑定、十四日太倉、十五日崑山と敵の第二陣を瞬く間に突破、十四日白茆口に敵前上陸して再び敵の虚を衝いた揚子江上陸部隊と緊密な連繫を保ちつゝ十九日には常熟を占領、京滬線に添つて

南京を指 す部隊は十九日江陰の要衝蘇州を抜いた、この間太湖の東方地區に展開された湖東作戰は連日冷雨降りそゝぐ中に泥濘膝を沒し敵軍を押める湖沼地帶に將兵は悲壯に絶する辛苦を重ねて然も斯くの如き神速振りを發揮したものだつた、蘇州を抜いて次に來るものは太湖の南北岸を分進して湖北の

江蘇戰線と 杭州灣上陸部隊の進む湖南の浙江戰線に分れ潰走する支那軍を追つて行つた。

この北部戰線は廿四日無錫廿九日常州と相次いで占領、一方南部戰線も廿五日南潯、廿八日嘉興、十九日湖州と抜いて廿五日には湖州を陷れ太湖南岸を繞り、北進して廿六日長興、廿九日宜興を占領、蘇州陷落十日目で太湖南北の作戰を完了

愈よ南京を 目指して勇敢し得意の平地、山岳戰に移つた、常州から丹陽を十二月三日に抜いた部隊は「南京は句容と共にあり」と稱せられた南京防禦の最重要據點を四日早くも陷れて湯水鎮から南京街道を紫金山に迫り、二日金壇城を抜いて磨盤山脈を越えて來た部隊は土橋鎮 淳化鎮から青龍山を制壓して南京に東南から肉薄、宜興から溧陽、溧水と進擊し來つた部隊は南方から

首都に迫る 斯くて五日南京防衞の敵の第三線を擊破して三面包圍の體形を整へた皇軍は南京を繞る山々に迫り七日朝から總攻擊に移つた、先頭部隊は早くも高橋門、大校場飛行場を占據、一擧南京城を屠る氣勢を示するに至つたが、こゝで

正義の皇軍 は投降勸告をなし回答來らざるを知つて總攻擊を開始、文字通り一擧にして南京を陷落せしめたのだ

戰線のひとゝ時 支那人の子供に興ずる皇軍勇士

鮮滿支の經濟陣へ 結ぶ京畿道の意氣
甘蔗知事提唱調查委員ら審重協議 產業開發方針決定さる

京畿道產業開發の指針決る中時の滿北支貿易の中樞たらしむるやう中樞京畿道では明朗北支の誕生と共に道內產業政策の根本的建直しを目指して甘蔗知事の提唱に依つて

非常時局の 戰時體制下 識者を網羅して去る九月二十八日組織された京畿道產業調查委員會では以來農、林、水、商、工の五部會に分ち各委員は道內產業の母體たる

開發指針を 決定すべく慎重研究を重ねる事數回、既報の如く各分科會の答申事項決定するや六日午後一時から道會議室に會長甘蔗知事以下各委員四十餘名出席裡に總會を開催、各部會の主査から各部會の答申事項を報告、更にこれを

討議研究を なした結果左の諸項を決定、道當局並に本府へ建議、これが實現に一路邁進することとなつた、尙道當局でもこれを根本策として道內產業開發に努力すべく早くも實行への第一步を力强く踏出した

農業部會

一、第一線に於ける指導員の充實並に其の技術的素質の向上を圖る事
二、蔬菜の管內自給を圖る事
三、燃料アルコール原料たる甘藷の栽培增殖を圖る事
四、棉花增產計畫の擴充を圖る事
五、小麥增產計畫の擴充を圖る事
六、農家の副業として養鷄養豚の普及增進を圖る事
七、畜牛の增殖を圖る事
八、緬羊の增殖を圖る事
九、乳牛の獎勵計畫を爲す事
一〇、農事試驗研究機關の擴大强化を圖る事

林業部會

一、用材林の造成を圖る事
二、薪炭林の整備改善を圖る事
三、森林資源の開發と山村副業の獎勵に依り山村經濟の振興を圖る事
四、林產物の販賣斡旋並之が統制を圖る事

水產部會

一、魚貝藻類の生產增進を圖る事
二、干製の生產增進製品改良及販賣方法の適正合理化を圖る事
三、沿岸漁業の發達振興を圖る事
四、遠洋漁業の發達振興を圖る事
五、漁業及避難地を可及的速に修築する事
六、漁村の振興を策する施設をなす事

商工部會

一、京畿道に商工指導機關を設置し本道商工業の指導に當らしむると共に之が貿易助長施設として滿洲國並北支其他樞要の地に貿易館を設け積極的に本道商工業の發達を圖る事
二、工業技術者養成施設を講ずる事
三、工業用水に對する調查並試驗の擴充を圖り且つ燃料其他主要原料の試驗施設をなす事

本府に對する建議事項

一、工業組合制度並に商業組合制度を速に實施する事
二、中小商工業者金融並損失補償制度を設ける事
三、仁川港を對滿支通商大貿易港としての各種の施設を速に整備する事
四、京仁鐵道の複線電化並に京仁間產業道路の開設を速に實現する事
五、海外直通航路の擴充並新線を開設する事
六、永登浦の電話を市內電話制度に改め現在の郵便所を局に昇格せしめ且京仁間電話線の增設を速に實現する事
七、京畿道供給電力の發電低廉なる電線の開設並之が普及を圖る事
八、商工業に對する金融を一層疏通せしめる事
九、京仁地方に完備せる商業倉庫を設置する事
一〇、仁川港に漁港施設を整備する事
一一、支那山東省方面の出漁獎勵に資する爲同省沿岸不開港に寄港可能なる途を拓く樣方策を講ずる事
一二、「トロール」漁業の許可方に付考慮する事

漢銀預金漸增

漢城銀行の預金は漸增傾向にあり期末には優に前期末現在の預金額を突破すべく豫想されて居り、最近業資の需要も漸增しつゝあるが、資金は潤澤で順調なりとしてある

米・小麥檢查增加
十一年產穀物檢查實績

十一年產米及十二年產大豆、小麥の檢查狀況は次の通りにて米は凶作でありたが麥に檢查が周知徹底したので却つて增加した（單位千叺）

	今年檢查數	前年檢查數
籾（九〇斤入）	三四、六七七	六八、五七七
玄米（四斗入）	一〇、〇五五	一三、九六八
白米（六〇キロ換算）	一〇、八五七	一一、三五九
大豆	二、四七七	二、九六六
小麥	二、一五九	一、〇五五

即ち籾と小麥の增加以外は何れも前年より減少したが、その中、白米が比較的減少せず今年の檢查數量は玄米よりも多くなつた、この外に叺の檢查數は三千九百六萬六千枚であるが、前年に比しては實に千三百五十八萬七千枚の減少である

產金資金の問題は 內地と諒解成る
鮮內資金は內地會社より分離

【東京發社發】產金會社設立に關しては過般來東上中の穗積殖產局長石田鑛山課長が連日に亘り大藏、商工省と折衝を重ねつゝあつたが愈々內地側と一緒にした一大產金會社を設立し金の增產を圖ることゝなつた、その具體的內容に就いては目下折衝中であるが金の增產に關しては大藏省としても內地產業等より朝鮮を唯一の頼りとして居る關係上 朝鮮側の云ひ分は充分に尊重して居るので大體本府側の主張通りになる模樣である

元來朝鮮としては單獨の產金會社案を持つてゐたのであるが 諸般の情勢から見て實質的に金額を沢山引出す爲には內地と一緒になつた方が得策であるとの見地から內地と合流したもので、資金も內地側とは分離して置き貸出、金額等に就いても內地側は事情に疎いから全部朝鮮支店をして當らしめ總督府がその指揮監督をなす事となり實質的には全然單獨會社と異らないわけである、しかして朝鮮として必要とする資金は大體一億乃至千餘萬圓內地側が一億足らずとみられてゐるので、大體三億餘萬圓の大會社となるわけで、具體的條件が決定次第法文化し今期議會に提案させる事となつて居るが、實際に會社が成立するまでは議會の協贊を得たる後諸般の準備が進められるわけだから少くとも七、八ケ月の日子を要する爲めそれまでの繋ぎとして三、四千萬圓の資金を別途に大藏省から支出して戴くべく交涉中で、方法その他についても大體の諒解がついてゐる

おや『ナンキンカンラク』！
歩きながらわかるニュース
和信屋上に本社の電光ニュース
どうして字を作るのでせう

六日の夜から、和信の屋上に、ピカ〳〵と光る京城日報電光ニュース（スカイサ・イン）を皆さんは御覧になりましたでせう、スカイ・サインを使つてゐる新聞社は東京、大阪に二、三あるだけで、これは忙しくて新聞もラヂオを見たり聞いたり出來ない人達の為に又は道を歩いてゐてもその日〳〵の重大なニュースが判るやうにと通行人のために考案された電光ニュースです

その装置を簡單にお話しますと、先づ正面に見える板の上には十ワットの電球が一千四百十四個も付いてゐます、その電球には一つ〳〵皆バネがあつてピヨコピヨコ飛び出すやうになつてゐるのです

さて、どうして文字が出て來るかといふと、あの板の上を巾の狭い長い黒いとても大きな紙があつてその紙に文字を彫るのですが、例へば『京日ニュース』を考へてみますと、丁度電球の頭が出る程の大きさの穴を次々に開けて行つて字にするのです　だから穴だらけの字が出來る譯です、さうして皆さんが半紙に字を書いてその字の上を線香の火で穴を開けながら想像する事を想像したら良いでせう

この穴だらけの字を書かれた黒い紙（リボン）はローラーで捲かれ乍ら電球の板の上をノロノロ歩き出すと丁度穴の所に來た電球がはね仕掛でピヨコンと飛び出します、眞黒な紙黄色い電球が飛び出すのですからソレが字になつて見えるわけです、そしてこのリボンがぐる〳〵と電球板の上を廻つてニュースが讀まれるのです

このリボンが電球板の端から端迄行くのに十秒かゝります、難かしい漢字で七字、假名文字で九字書けます、文字を作るのに大變手間が掛るので出來るだけ假名文字を使はうとするのです

機械は簡單に點滅器と呼ばれてゐますが備へ付けるのには二千圓かゝつてゐるさうです

皇國臣民ノ誓詞

【其ノ一】
一、私共ハ大日本帝國ノ臣民デアリマス
二、私共ハ心ヲ合セテ天皇陛下ニ忠義ヲ盡シマス
三、私共ハ忍苦鍛錬シテ立派ナ強イ國民トナリマス

【其ノ二】
一、我等ハ皇國臣民ナリ忠誠以テ君國ニ報ゼン
二、我等皇國臣民ハ互ニ信愛協力シ以テ團結ヲ固クセン
三、我等皇國臣民ハ忍苦鍛錬力ヲ養ヒ以テ皇道ヲ宣揚セン

★神かけて　いのる武運長久
○○驛にて　西村俊郎氏撮影

童話　仔猫
坪田譲治　野本年一繪

『お母さん』さう呼んで、子猫はある日親猫にきいて見ました

『他の猫はみんな人間と一緒に住んでて、みんな人間からおいしいものを貰つてゐますよどうしてボク達だけこんな

……物置……

にゐなけりやならないんでしよ、どうしてボク達にだけ人間はおいしいものを呉れないんです』

親猫が言ひました

『私にだつて、人間の主人はあつたんだよ、ところがその人がね、お前の生れる前に遠い處へ行つてしまつたんだ、私も一緒につれてゆかれたけれど、私はどうしてもこの土地が忘れられなくてね、一人でこつそりこゝへ逃げて來たんだよ、それからはもう御主人のない、ノラ猫といふことになつてしまつたんだよ』

子猫が言ひました

『そんならもう一度、その御主人の處へ歸つて行つたら——置いて貰へて、おいしいものを食べさせて貰へはしないだらうか』

これを聞くと、親猫は首を傾けて考へ込みました

『それがねえ、お母さん、もう其お家を忘れてしまつたんだよ』

子猫は困りました、けれども又言ひました

『だつたらお母さん、何處かの人間の處へ行つてお願ひして見たらどうだらう、ボクだつて、直ぐ眼がとれるやうになるでせう、ボクとお母さんとふたり置いてくれる家ないかしらん』

親猫にはこんな家があるやうには思へませんでした、人間といふものをよく知つてゐたからです、けれども、古ぼけたこの物置の隅に

……子……猫……

が一生ノラ猫でゐることを考へると可哀想でなりませんでした、それである晴れた日のこと、二人は御主人になつてくれる家をたづねに出て行きました

少し行くと、もう良い家が見つかりました　だつて、お肴の匂がプン〳〵して來るのです

『お母さん、こゝにしよう』

子猫が直ぐ言ひました

『ちや、お前入つておゆき、行つてお願ひして御らん』

親猫が言ひました

『だつて、ボクどう言つていゝか解らないんだもの。母さん行つて』

子猫がさう言ふもので、親猫は仕方なく臺所口へ入つてゆきました。何と言つて頼んだらいゝでせう。人間の言葉は言へません。それで、親猫は

『ニャーオ』

と、出來るだけやさしい聲で呼んで見ました。その聲を聞くと、女中さんが言ひました

『あれもう猫が來てゐるわ。も少しで肴をとられる處だつた。シッ、シッ』

仕方なく親猫は手を上げて打つ眞似をしました。これを見ると、子猫が大喜びで言ふのでした。だつて、子猫はもう御主人が見つかつて、直ぐにもそのいゝ匂のお肴が食べさせて貰へるやうに思つたからです。でも、子猫はきゝました。

『どう言つたの、こゝのお家』

『ウン、やつぱりもう猫がゐるんだつて』

斯う言つて、女中さんが打つ眞似をしたとは言ひませんでした。子猫が可愛想でならないからです。でも、

……い……ゝ……

家が直ぐまた見つかりました。そこからは牛肉のたまらない程いゝ匂が匂つて來てゐました

『あつ、こゝがいゝ』

こんなに子猫が言つたくらゐです。

『ちや、こんどこそお前行つてごらん』

親猫に言はれて、子猫はお母さんの足に身體をこすり付けて甘へました。

『やつぱりボク、一寸恐ろしいなあ。何て言ふの第一言葉が解らないでせう。それに犬なんかゐたらボク食べられてしまふでせう。ねやつぱり母さん行つてお願ひして來てよう』

子猫が丁度さう言つた時でした。ウウーといふ犬の唸り聲がしました。

大きな犬が垣根の内から今にも飛びかゝりさうに身構へてゐました。さあ大變です。親猫は子猫を引きつれ、元の物置をさして、ドッと逃げて歸りました

ドイツとイタリーの國旗
とも『熱血』に張る

ニッポン、ドイツ、イタリーの三國は世界平和のために堅く手を握り、世界平和を破壊する國に對抗することになりました

このことは、すでに、みなさんが新聞やラヂオを通じてごぞんじのはずと思ひます、それについて今日はドイツとイタリーの國旗についてお話致しませう

ナチス・ドイツの旗については、皆さんは、昨年のオリムピック大會當時のニュース映畫以來なじみの深いことでせう、赤地に黒く鉤十字を染め抜いたナチス・ドイツの國旗——これをハイゲンクロイツアといひます、日本式にいへば『鉤十字』または『逆卍（逆形のまんじ）』といふのに當ります

この『逆卍』は北歐神話にあるドールの神と呼ばれる神様の槌であつて、昔は惡魔除けの印として用ひられてゐたのですが、これをナチス黨が國を治めるやうになり、光明と幸福との印としてナチス黨の紋章に使用することにしたのであります

旗の地色の赤い部分は吾々に光りと熱とを與へる太陽を現はしたもので、熱血と赤誠とを現はす意味も加へられてゐます、ナチス・ドイツの少國民は朝に夕にこのハイゲン・クロイツアの國旗を眺めて國家の繁榮のために元氣で勉強してをるのです

次にイタリーの國旗は、旗竿の側から、綠、白、赤の順に縦に部分に染め分けられた三色旗です、この旗じるしは一八七〇年十二月三十一日ヴイクトル・エマヌエル二世が首府をフローレンスからローマに移した記念と、即位の大典の記念とを兼ねて、この三色旗が定められました

白色と赤色はイタリー王家の紋章の色であつて、綠は國内統一完成新旗の希望を表はします

中央の白色の中にある楯は、藍色の輪廓で圍んだ赤地、それに白十字——サボイ王家の武器に象つた紋章を表はし、その上に黄金の王冠を表はしてゐます　この國旗を眺める時イタリー國民はは綠は世界に誇るべき闘士の並はずものともおもひ、白は平和を希ふ國民の正義の心、赤は祖國のために流した愛國の血汐であると考へてをります、今や熱血と正義　そして世界の平和を希望して國民は力を一つにして働いてゐるのです

なほ、イタリーの國旗を見ますと中央の楯の上に王冠のあるものと王冠のないものがありますが　軍旗、軍艦旗は國旗と同じく王冠のあるものを用ひ、商船とか一般民家では王冠のない楯だけある旗を用ひるやうになつてゐるのです　しかし、今日では、王冠のない旗が國旗として用ひられるやうになつて來ました

棋戰 爭覇戰譜
突擊の六四角切り
上手逆襲の四七と

（香落）□六段　塚田正夫
▲四段　橋爪敏太郎

第六局

▲六四角33　△同歩　▲七五桂3　△五二角37　▲三一飛成　△四七と　▲六八金寄6　△六五歩14　▲同銀　△五七と　▲四八歩11　△六八と　▲同銀

（圖は□六二歩迄の局面）

△塚田氏（持駒）桂

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂		金		飛		香		一
歩	王	銀	角						二
	歩	と	歩						三
と			銀	と	金	歩			四
							歩		五
		と	銀	歩	角	と			六
	歩		歩		と	歩			七
		玉		金		龍			八
香	桂		金	銀					九

▲橋爪氏（持駒）桂歩三

（持時間各七時間）
累計　塚田氏　4時間33分
橋爪氏　4時間21分

前局私は局面に於ける下手の攻擊手段に就いて、大いに期待を掛けその寄手を待つたが、本日の劈頭猛然六四角で、凄まじい攻勢に轉じてゐる。以下何時になく橋爪氏は此邊猛烈に攻め立てゝゐる。即ち上手同歩に應じて七五桂と矢繼ぎ早やに攻略の火蓋を切つた。これは上手方もゆめ〳〵油斷は出來ない、次ぎに下手方より六三桂成と指されては、忽ち局面が悪化するから、その後ぎに五二角と防戰する、前記激戰に當て此間の先手で、四七と寄りを和かさうと云ふ、寸法、下手六八金寄りは當然斯くて上手は（此處ぞ）とばかり六五歩で、鋭い迎襲に轉じて來たこれに對する下手六五歩は弱手であるがこれは七七銀引の方が手堅い、七七銀は一見逃避的に思はれて、習手棋士としては斯かる手段は指し切れなかつたものであらうが、敵にも六三銀打の如き眼があるから、此處は手堅く隱忍すべきであつた。上手五七とは痛烈、この攻擊順あればこそ、上手は大切の角を五二へ放したのである。下手四八歩は軽い凌ぎであるが上手方六八とと金を得た後、次ぎに何處から寄せ手の兵を向けるであらう、一見すると、上手方にもさう早い攻めがなささうに見受けられる局敵、これで下手に六三銀打の如き攻め手順が繼れば、面白い將棋となりさうである。斯う思ふとますます上手方の寄手が見ものだ。

從軍記者慰問號

皇軍は今方に敵を席捲して猛進猛撃を續けて居る。鬼神にあらずんば爲し難き處、國民の感謝感激は絶頂に達して居る。

第一線將兵各位の苦艱辛勞に思ひを致す時、我らの念頭に常に思ひ浮ぶものは從軍記者寫眞班或は之らの聯絡任務に服する飛行機班及聯絡員諸君の困苦艱難である。不眠不休は勿論その生命の危險を犯して任命を遂行する事において、犧牲者は頻出した。而して之ら犧牲者はその光榮において名譽の戰死傷者と寸毫の差異なきを信ずる。一身を挺して使命を敢行せんとする崇高なる犧牲的精神が之ら從軍新聞人に有りてこそ、我らは逸早く且詳細に第一線の戰況を知り銃後との聯絡を完ふし得るのではないか、誰か之に感謝せざるものあらんや。

唯茲に遺憾の事は滿腔感謝の念が存在しても、如何にして此感謝の念を表明すべきかにつき適當の機會と方法とを發見し得なかつた事である。即ち下掲の廣告華主と、本新聞社と日本電報通信社の三者は、相協力して右支那事變に從軍し親しく第一線に在つて苦鬪する新聞人諸君に對し聊か感謝と慰問の赤誠を表し、以てその勞を犒はんとするものである。蓋し我ら之を爲すと共に一般世人に對し之が機會と端緒とを拓かんとするもの大方の諸彦今後之に傚ふあらば蓋し我らの最も滿足する處である。

顧みれば酷熱の戰地に在つて苦鬪された諸君の上に、漸く清涼の秋氣が見舞ふたかと思ふと又既に酷寒が襲來せんとしつゝある。冬季に於ける諸君の辛苦を思ふ時、我らは只管感激に戰くのみである。謹んで諸君が克く健康に注意され以てその大使命を達成されん事を祈願する。

合掌。